

県内初！ やわたかしまやま 八幡鹿島山古墳で「船が描かれた埴輪」が出土

松江市埋蔵文化財調査課

今年6月から8月にかけて実施した八幡鹿島山古墳発掘調査で出土した遺物の整理作業中、「船が描かれた埴輪」を確認しました。

広く市民の皆さまにご覧いただくため、松江市立中央図書館での展示も下記の日程で開催いたします。

●展示日程

期 間：令和6年10月26日(土)～令和6年11月28日(木)

場 所：松江市立中央図書館内 展示ケース

【「船が描かれた埴輪」の概要】

松江市八幡町に所在する八幡鹿島山古墳は、今年度を実施した発掘調査によって、5世紀前半に築造された一辺40mほどの大型古墳であることが判明しています。また、この調査では墳丘に立て並べていたと考えられる円筒埴輪片が多数出土しました。

現在、出土遺物の整理作業を行っていますが、線刻によって船の絵が描かれた円筒埴輪を島根県内で初めて確認しました。

船が描かれた埴輪は全国でも20数例しか報告されておらず、かつその分布は近畿地方に集中しています。



船は古来より物理的に物資を運ぶ乗物だけでなく、魂を運ぶ乗物としても考えられてきました。今でも県内の海浜部の集落では、お盆に精霊送りしょうりょうをするとき、むぎわらで小さな船を作り、これに供え物をのせて流すという風習が残っています。隠岐の「シャラ船」が有名ですが、美保関町にも同様の風習があります。

今回発見された船の線刻画についても古墳に飾られた埴輪に描かれており、被葬者の魂を無事にあの世へ送り出すために描かれたものと考えています。当時の葬送観を考えるうえで貴重な発見と言えます。

【和田晴吾氏(立命館大学名誉教授)コメント】

古墳時代の葬送儀礼研究の第一人者である和田晴吾氏にコメントをいただきました。

「船である可能性が高い。もし、船であれば、それは他界へ行くための乗物としての船であったものと思われる。ヤマト王権で創出された、古墳づくりを含む葬送儀礼(古墳の儀礼)が、広く行きわたっていた証と言える。」

問い合わせ先：松江市役所 埋蔵文化財調査課 調査企画係 [TEL:0852-55-5284](tel:0852-55-5284)